

平成 26 年度 自己評価結果公表シート

木津幼稚園

1、園の教育目標

<p>「明るく 正しい 賢い子」を建学の精神とし、「遊びの中・生活の中での言語」を教育の目標として日々の保育に取り組む。</p> <p>本園ではめざす幼児像として次の5項目を活用する</p> <ul style="list-style-type: none"> 1、心の教育 2、音感教育 3、自然教育 4、言語教育 5、体育遊び
--

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

<p>子ども達同士の会話や挨拶の強化、それに伴う言語能力の発達を見る。24年度から継続</p>

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
教育課程を幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育方針にしたがい編成している。	世界平和、国際協調を念頭に置き、国際社会に対応できる人材の育成を目指し、日常の中の言語を中心に進めている。
教育要領、教育課程を子どもの実態などをもとに考えて作成している。	同じく国際社会を視野にこれからの実情に沿ったものを子どもの負担が無い形で取り入れている。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	リスクマネジメントとして子供における危機管理を画面にて行う。ヒヤリハットの活用 朝夕のチェックリストを作成する
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	各クラスで危険物や落下物が無いかをチェックすることで安全なクラス運営を確保する
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	一人一人の子どものよさを認め、教師が客観的に子どもを見る目を養うように努めている。
あそびを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	自分で工夫して遊び、それが発展して友だちと協力して遊べる環境を準備するようにしている。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行なう。	登園から降園までの一日の流れの中で、身に付けてほしい生活習慣の獲得を促している。リズムを大切に、音だけでなく生活の部分でもリズムが鍵となっている。
全職員が年に1回以上公開保育を行なう。	各教職員が公開保育を行い、保育を見てもらう事によって、よりよい保育環境を意識できるようにしている。
各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。	教員免許更新講座に積極的に出席し研鑽を積む。職員間の意思疎通をする会を作る。

園だよりや合同研修会をととして幼稚園の情報を発信していく。	園の取組を情報発信するように園だよりやホームページに記載し、積極的に取り組んでいく。Facebook を使い、保護者に即時性のある情報を出していく。継続
園の財務状況を積極的に公開する。	公認会計士より適正に処理されているとの報告を受けている。
安全管理	内壁、内床、タオル掛け、非構造部材の耐震化などの整備、放射線測定、避難経路の確認、地震時の避難確認

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	経験年数が多い先生ほど自分に厳しく思うように点数が伸びない。今後も客観的な目で自らの教育、保育を振り返り、さらに充実した実践ができるように努力を積み重ねるようにする。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自己点検、自己評価	安全に関するチェックを追加してより安全な学校生活を送れるよう配慮を加えた。
コミュニケーション	保護者とのコミュニケーションを密に取る必要があるが、個職員とのコミュニティーが発展したり、保護者間のトラブルなどに注意が必要。

6、学校関係者の意見

<p>(学園理事会) 良 (学園評議会) 良 (保護者会) 拝見させて頂きました。ありがとうございます。</p>
--